

## 令和2年度事業報告書

社会福祉法人恵泉会

作成:令和3年5月29日

### 1. 事業の目的

社会福祉法のもと、老人福祉を实践すると共に、介護保険法の指定介護老人福祉施設および、指定居宅事業者として、介護を必要とする高齢者へ各種の介護サービスを提供し、地域の老人福祉に貢献することを目的とする。

### 2. 基本方針

2-1 以下の事業を行った。

- (1) 第一種社会福祉事業（指定介護老人福祉事業）  
指定介護老人福祉施設 菊水園  
指定地域密着介護老人福祉施設 菊水ビラ
- (2) 第二種社会福祉事業（指定居宅サービス事業）
  - ① 短期入所生活介護事業所 菊水園ショートステイセンター
  - ② 通所介護事業所 菊水園デイサービスセンター
  - ③ 地域密着通所介護事業所 菊水神郷デイサービスセンター
  - ④ 予防通所介護事業 菊水神郷デイサービスセンター

2-2 以下の4Sを追求することを基本理念とした。

- (1) 利用者満足（高齢者の多彩な要求にこたえる）
- (2) 職員満足（働き甲斐、やりがいのある職場とする）
- (3) 地域満足（地域の高齢者及び家族が安心して老後を暮せるよう努力する）
- (4) 安全（事故のない事業を行う）

### 3. 法人経営の方針

- (1) 理事会の決定に従うとともに関係法令通知の基準に則し、適正な法人経営に努めた。
- (2) 関係機関との連絡調整に努め、地域社会との協調を図った。
- (3) 資産の管理および会計の処理については、定款並びに経理規程に従って適正な管理に努めた。

### 4. 理事会の開催と監事監査、評議員会、評議員選任解任委員会の開催

- (1) 理事会を年3回行った。議事内容は下記の通り。

第1回	令和2年6月13日
	令和元年度事業報告および決算審議
	監事監査報告、社会福祉充実残額審議

## 恵泉会

役員報酬規定等の一部改正

評議員選任・解任委員会運営細則の一部改正

定時評議員会開催事項、就業規則の一部改正

第2回 令和2年10月31日

中間概算決算報告

理事長の職務執行状況報告

第3回 令和3年3月27日

老人介護支援センター、在宅介護支援センターの廃止

令和2年度補正予算、令和3年度事業計画および予算

評議員候補の推薦、評議員選任・解任委員会開催事項

特養菊水園施設長の退任および選任

経理規定の一部改正、就業規則の一部改正

役員賠償保険の更新、理事長の職務執行状況報告

指導監査の結果報告

(2) 6月理事会の前及び県等の監査の前に監事により監査をうける。

① 令和2年6月4日 決算理事会前監査

② 令和3年1月14日 東近江市監査前監査

(3) 評議員会 令和2年6月27日

令和元年計算書類および財産目録の審議

監事監査報告、社会福祉充実残額報告

役員等報酬規定の一部改正、役員報酬等額の件

定款の一部変更

(4) 地域密着事業運営推進会議

菊水ビラ 令和2年11月25日

議題：事業の計画、目的、運営の方針、事業の現状、コロナ対策

菊水神郷デイサービス 令和2年11月27日

議題：運営状況報告、地域貢献事業の報告

## 5. 本年度事業

### 5-1 法人全体

本年度は菊水ビラ開所の年となり、大々的に開所式を行うべきところ、新型コロナ禍により開催できず、さらに新規入所者の受け入れにも注意が必要で予定した事業計画も順調にはいかなかった。

特筆すべき成果を以下に報告する。

(1) 菊水ビラの職員配置がゆとりをもってできるよう新規職員の採用に努めるがコロナ禍のため求人面接会など対面での催しが行われず求人が順調に行かなかった。

- (2) 上記に関し菊水ビラの職員確保のため以下の事業の縮小を行ない人員配置転換を行った。
  - ①菊水園ショートステイ事業の縮小。定員9名から3名へ
  - ②菊水園通所事業の縮小。定員35名から25名へ
  - ③菊水園通所事業の営業日を週6日から5日へ
  - ④菊水園通所介護予防事業の廃止
- (3) 菊水神郷デイサービス事業は能登川地区通所事業所の閉鎖もあり事業拡張を考え人員変更は行わず。  
令和2年7月から週5日稼働。
- (4) 介護人材確保の一環として、職員給与の引き上げを行った。
  - ①介護職員の基本給を一律2万円引き上げた。
  - ②非常勤介護職員の時給単価を引き上げた。ただし通所介護の介護職員の時給は据え置きとした。

#### 5・2 指定介護老人福祉施設 菊水園

- (1) 介護職員の負担軽減、環境整備のため手動式ベッドから電動低床ベッドに19台入れ替えた。  
職員の働く環境の改善および利用者のベットからの転落事故防止を図った。
- (2) 腰痛防止のために介護アシストロボットを数台導入を検討したが、職員の負担軽減に効果的なものがなく、引き続き研究する。
- (3) 利用者の見守り介護軽減のためインターネットカメラの導入、Wi-Fiネットワーク作りの研究を行った。
- (4) コロナ禍で重度認知症高齢者の介護手法、認知症介護の外部研修が取りやめになり順調に研修ができなかった。
- (5) 感染症予防対策の充実  
新型コロナウイルスの施設内への侵入防止ができコロナ患者の発生がゼロで推移した。その細目は以下の通り。
  - ①家族面会のPCを使用したりリモート方式の採用。  
求人面接等の面談は二方向に窓のある部屋で十分離れて行った。
  - ②看取り利用者の家族は菊水園が平屋であることを活かし、室外から出入りしてもらった。
  - ③入院などによる利用者の空きベッドはショートステイに利用しなかった。
  - ④利用者が集まる広場には強力な除菌フィルターを設置した。
  - ⑤園内に入る場合にはアルコール消毒、体温測定器による発熱チェックを徹底した。

#### 5・3 短期入所生活介護事業所 菊水園ショートステイセンター

## 恵泉会

- (1) 利用者定員を9名から3名とすると共に施設入居者の入院者の空きベットは利用しなかった。
- (2) 3室はすべて個室とし、ショート利用者は空いてる一室をリビングとし、施設入所者との分離を行ってコロナ感染防止に努めた。
- (3) トイレ、風呂の利用についても時間差での入居者との分離を行った。

### 5-4 通所介護事業所 菊水園 デイ サービスセンター

- (1) 菊水ビラへ職員を配置するため利用者定員を35名から25名とした。
- (2) 稼働日は月曜から金曜日の5日とし、土曜日のサービス提供を止めた。
- (3) 利用者は旧在宅支援センターのスペースを利用し、できる限り施設入所者との接触を避けるようにした。

この運営の結果、入浴が施設入所者と分離できないので令和3年度にはチェア一浴室の移設を行い施設と分離することとする。

### 5-5 地域密着通所介護事業 菊水神郷デイサービスセンター

- (1) 神郷地区のデイサービス事業者のコロナ関連での休止などで、当施設の稼働率が上昇した。

サービス提供日を一日増やし週5日とした。

不足する人員に関しては菊水園デイサービス事業所からの応援で賄った。

- (2) コロナ対策としては施設入り口での体温測定、空気清浄機の設置、定期的な換気、手洗いの徹底等を実行した。  
結果として感染者はゼロであった。

### 5-6 地域密着特別養護老人ホーム 菊水ビラ

- (1) 新入社員5名、職員OBの復帰4名、菊水園からの異動6名でサービス提供を行った。
- (2) ユニットリーダー2名、ユニット管理者1名の資格取得研修を受け認定された。
- (3) 入所者はコロナ禍の影響を受け月平均3人程度の新規入所状態であった。  
年度末時点で17名、死亡退所3名であった。
- (4) ビラの運営委員会は第1回の会合しかできなかった。

### 5-7 その他の事業（地域貢献事業）

- (1) 地域福祉の一環として独居老人の配食、見守りサービスを行った。
- (2) 紙おむつ販売事業を行った。

### 5-8 職員研修及び福利厚生

- (1) 園内外研修
  - ① コロナ禍で園外研修は行われず、リモートの研修に参加した。
  - ② 新人職員のOJTによる介護基礎研修に集中した。

(2) 資格取得と福利厚生

コロナ禍で資格取得、福利厚生によるリフレッシュ旅行などできなかった。

5-9 地域福祉

コロナ禍のため地域福祉活動全般に貢献できなかった。

ボランティアの受け入れも停止した。

6. 法人としての重点目標

- 1) 菊水ビラの立ち上げはコロナ禍により予定より遅れ60%の進捗となった。
- 2) ショートの縮小はコロナ禍での利用者の利用減があり、混乱なく縮小できた。
- 3) デイサービスもショートと同じ傾向を示した。
- 4) コロナ禍の影響で対面による求人活動の激減が大きく影響し介護職員の充実が果たせなかった。

7. 経営及び財務

コロナ禍で事業全体として収入は落ち込んでいるがその結果を以下に報告する。

7-1 菊水園

- 1) 延利用者数 令和1年17,652人 ⇒ 令和2年17,135人
- 2) 収入 210,011千円⇒ 215,061千円
- 3) 分析 コロナ禍で新規入所者を慎重に調査した結果利用者数が減少した。  
収入面は保険料の改定が有り微増である。

7-2 菊水園ショートステイセンター

- 1) 延べ利用者数 令和1年3,765人 ⇒令和2年 998人。  
減少率 73.4%
- 2) 収入 45,413千円⇒ 12,205千円  
減少率 73.1%
- 3) 分析 定員を9名から3名に変更した影響が大きく、コロナ禍で  
特養の空きベットの利用をゼロとした影響も出ている。

7-3 菊水園デイサービスセンター

- 1) 延べ利用者数 令和1年4,616人 ⇒令和2年 3,810人。  
減少率 17.4%
- 2) 収入 60,447千円⇒ 39,851千円  
減少率 34.4%
- 3) 分析 定員を35名から25名に変更した影響が出ている。土曜日を  
提供日から外した影響はないようである。

7-4 菊水神郷デイサービスセンター（予防事業含む）

- 1) 延べ利用者数 令和1年1856人⇒令和2年 2,520人。

## 恵泉会

- |     |       |
|-----|-------|
| 増加率 | 35.8% |
|-----|-------|
- 2) 収入 12,613千円⇒ 20,921千円
- |     |       |
|-----|-------|
| 増加率 | 65.8% |
|-----|-------|
- 3) 分析 コロナ禍で能登川地区のデイサービス事業者の休止に伴い週4日の稼働を5日に変更した影響が表れている。  
収入面では菊水デイの利用者単価11,350円に対し神郷は8,300円で大きな差が有り、介護予防利用者の比率が多いと考えられる。

### 7-5 地域密着特養 菊水ビラ

- 1) 延べ利用者数 令和1年0人⇒令和2年3513人。
- 2) 収入 0千円⇒ 51882千円
- 3) 分析 コロナ禍の影響で、新規入所者の利用が低調であり、年平均で10人/月である。  
介護職の補充に関しても対面面接がなく、また応募も少なく人員の充実ができなかった。  
金銭面ではショート事業の減収と、デイ事業の減収を補い総合では前年並みを保っている。

### 7-6 人件費支出 (年間)

年度末人員数	令和1年	令和2年
常勤	31 ⇒	31名
非常勤	28 ⇒	37名
合計	59 ⇒	68名
年度人件費	令和1年219776千円⇒	令和2年235488千円

### 7-7 事務費及び事業費支出

事務費	令和1年29331	⇒令和2年25907千円
事業費	令和1年43269	⇒令和2年48894千円

### 7-8 総合財務分析

- 1) 人件費が1500万円程度増加しているがこれは菊水ビラの人員増によるもので、稼働率が上昇すれば事業計画通りとなると考えられる。
- 2) 事務事業費は増加していくものと考えているが、人件費ほどの影響力はなく、重要なことはコロナ関連補助金が多く出ているので、これをうまく利用していきたい。
- 3) コロナワクチンの接種が順調に進んでいるので何時当法人のコロナ対策を緩め、各事業の稼働率上昇に努めるかが今後の課題となると分析している。